



和歌山大学南紀熊野サテライト2010年度 事業総括書

2011年3月

和歌山大学地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センター

南紀熊野サテライト

0、はじめに

南紀熊野サテライトの基盤強化の年

和歌山大学南紀熊野サテライト（旧紀南サテライト）は、2005年の4月に地域型サテライトとして設置されてから丸5年が経過した。2010年度の取り組みでは、この5年間の取り組み・成果を全国的に発信する年であった。本報告書において2010年度の事業について総括してみたい。

2010年度事業の特長・課題

2010年度の南紀熊野サテライト事業の特長・課題を、箇条書きにまとめたい。特長・課題とも絞り込むために、3つに絞っている。

【5つの特長】

- ①南紀熊野サテライト5周年記念事業の実施
- ②地域型大学サテライト拠点情報交換会2010 in 和歌山大学・南紀熊野の実施
- ③地域創造支援機構の発足に伴う、南紀熊野サテライトの人的基盤の強化・地域連携事業の強化、名称変更
- ④学内の研究教育事業への参画（心に響く現物教育プロジェクト、地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト）
- ⑤連携協議会の強化、自治体との事業面、運営面での強化

【残されている5つの課題】

- ①地域創造支援機構4つのUI・7つの行動宣言とサテライトミッション（みらい戦略）との整合化・焦点化
- ②地域連携を通じた研究・教育、地域の発展のモデル構築と開発
- ③大学院・学部開放授業の戦略的授業編成と広報
- ④本学学生の南紀熊野地域フィールドワークのコーディネート強化
- ⑤さらなる地域からの認知の向上（メディア、紙媒体、口コミ、実績による認知）

2010年度もまた、事業展開・企画遂行が多岐にわたりさまざまな成果と課題もあったが、オフィススタッフだけでは達成されるものではなかった。これもひとえに受講生の皆さん、地域の皆さん、学内の皆さん、関係者の皆さん支えがあってのことである。皆様に厚く御礼を申し上げたい。

和歌山大学南紀熊野サテライト

【 1 】 高等教育部門／主催講座関係

1-1 高等教育（大学院・学部授業）関係

①大学院受講者6科目延べ43名（修士課程含む）、学部受講者4科目延べ37名、研究指導2名。

<平成22年度紀南サテライト受講生申請状況概観>

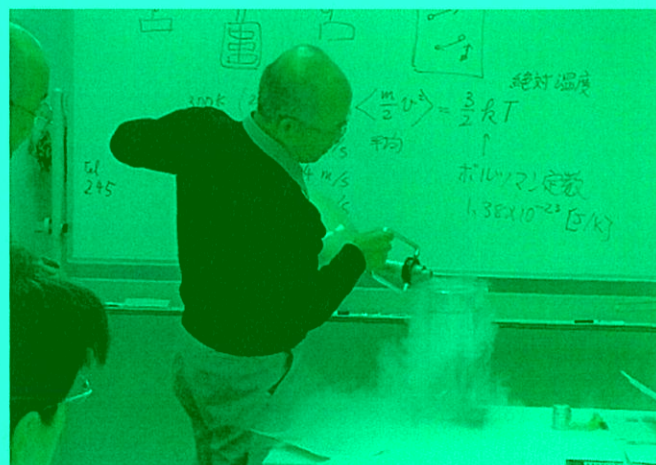
区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
大学院	前期	着地旅行の作り方	廣岡・野竹・金	観光	6	1		7
		世界と日本のマクロ経済	大泉・足立・荒井	経済	9	1		10
		観光まちづくり研究	佐藤(代)・榎戸・近藤)	観光	7	3		10
	後期	情報科学概論	和田・葛岡・呉	シス工	4	0		4
		地元学特論	河音・鈴木	経済	4	1		5
		異文化交流	柏原・吉村・東	教育	5	2		7
					合計			43

区分	開設	授業科目名	担当教員	担当学部	受講者数			合計
					サテライト	本学より	高校生	
学部	前期	漱石文学と春夫文学	恩田・辻本	経済	15	1	0	16
		世界遺産保全と遺産観光による地域づくり	峯俊	観光	9	1	0	10
	後期	科学を楽しむ	宮永	教育	7	1	0	8
		みんなの科学入門	尾崎・中西・橋下	シス工	3	0	0	3
					合計			37

総合計	80
-----	----



「地元学特論」フィールドワーク



「科学を楽しむ」授業実験風景

- ②本科生2名が研究指導、修士論文執筆を経て修士課程を修了。
- ③岸和田サテライトと連携した大学院「地元学特論」では、互いの受講生が南紀熊野・岸和田地域をフィールドワーク実施
- ④学部授業でも現地フィールドワークを実施するだけでなく、科学実験を実施するなど、座学だけではない学びを提供
- ⑤本年度は利便性を向上させるため、試験的に学部開放授業の一部を市内中心部である「田辺市民総合センター」へ移して開講した。



再リニューアルした募集チラシ

- ⑤再リニューアルした募集チラシ、FM tanabe、紀伊民報、日高新報を通じた宣伝を実施
- ⑥受講者ニーズ（アンケート・ヒアリング）に即したカリキュラムの実現
→漱石文学、地元学、経済学、観光・世界遺産

1-2 大学広報・情報提供関係

- ①入学者選抜要項・教員免許状更新講習案内の提供・相談対応（担当部局へのコーディネート）
- ②「生涯学習ニュース」をリニューアル。南紀熊野サテライトコーナー（サテライト通信）を設置
- ③本学広報室と連携して紙媒体・本学ホームページを通じた広報を実施
- ④放送大学と連携した公開講座・共同の受講生募集説明会の実施

連携公開講座和歌山アジア新時代の地域力を問う 「地域資源の再発見」

（共催：放送大学和歌山学習センター 和歌山大学南紀熊野サテライト）

日時：平成23年2月6日（日）13:30～16:00 Big・U研修室1 参加約30名。



「地域資源の再発見」公開講座風景



一部リニューアルしたホームページ

1-3 主催講座・発表会関係

①和歌山大学南紀熊野サテライト5周年記念事業「南紀熊野でワダイを発信—地域から宇宙まで—」を実施

日時：平成22年12月23日（祝）10：00～15：30 Big・Uにて 参加約300名。

内容：＜記念講演①＞

「仲間と一緒に始めよう！筋トレと脳トレが同時にできるシニアエクササイズ」教育学部本山貢教授

＜研究発表＞

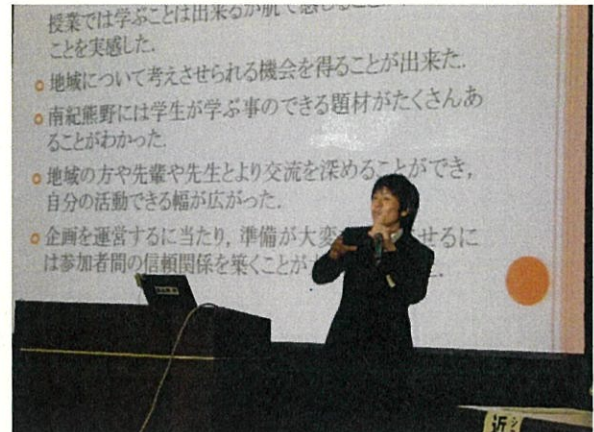
「田辺市における木質バイオマス利用の可能性」南紀熊野サテライト修士修了生 松下精二氏

心に響く現物教育プロジェクト「古座川での自然体験」で学んだこと

システム工学部環境システム学科3年 近藤洋平氏



記念講演① 教育学部本山 貢教授



研究発表 近藤 洋平氏

＜記念講演②＞

「紀伊半島学」事例紹介

- ①江種伸之准教授：情報配信システム
- ②井伊博行教授：ダム建設による影響とは？紀ノ川、切目川の水質とプランクトンについて
- ③和田俊和教授・吉田 登准教授：地域資源の利活用とまちづくり
- ④足立 啓教授：地域福祉計画とその展開
- ⑤豊田充崇准教授：ホームステイ&地域密着教育実習の成果と展望
- ⑥此松昌彦教授：崖崩れ前兆現象検知システムの開発
- ⑦本多友常教授：高野町景観重要建造物—第1号指定への軌跡
- ⑧谷口正伸助教・宮川智子准教授：紀伊半島の観光の現状と新たな観光資源の発掘
- ⑨鈴木裕範准教授：半島地域の経済再生
- ⑩伊東千尋教授：備長炭から作るハイテク素材カーボンナノチューブ

＜よさこい演舞＞

和歌山大学よさこいチーム「和歌乱」による演舞

＜主催者・来賓挨拶＞

和歌山大学理事・地域創造支援機構長 堀内秀雄副学長

和歌山県知事（代理 和歌山県企画部長） 柏原康文氏

田辺市長・和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会長 真砂充敏氏

＜記念講演③＞

「熊野から宇宙へ」はやぶさ帰還映像を交えた講演 観光学部尾久土正己教授



よさこいチーム「和歌乱」による演舞



記念講演②「紀伊半島学」発表者



主催者・来賓挨拶



記念講演③ 観光学部 尾久土正己教授

<日中>

地域の特産品の販売（龍神は一と）・経済学部鈴木ゼミの学生が地域と協働して作った太田米の販売
 「熊野古道」の360°ドーム映像体験／和歌山大学進学相談会の実施
 和歌山大学の研究・活動風景のパネル展示を実施。

<交流会>

「和歌山大学教員との交流会」を実施



大学関係のパネル&資料の展示



学生と地域で協働した「太田米」の販売風景

②和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会&講演会・シンポジウム

日時：平成23年4月2日（土） 13:30～16:00 Big・U研修室4

参加43名。

内容：修士論文発表

①谷脇幹雄氏「南紀田辺における環境を活かした地域振興方策」

②溝口博一氏「地域農業活性化と有機農業の意義及び経済性に関する研究～紀州梅について～」

ミニ講演（経済学部教員より）

①足立基浩氏「地域の魅力再発見…「まちづくりカフェwith」と「わかやま散策隊」の取り組み」

②大西敏夫氏「地域農業の活性化をめぐる諸条件」

シンポジウム 上記4名の登壇+コーディネーター（大泉サテライト長）



発表会・講演会風景



シンポジウム風景

1-4 本学授業や学生との連携・支援

①本学学生の南紀熊野フィールドワーク（田辺、那智勝浦）、イベント企画などの相談や調整、教員とのコーディネート等を実施

②心に響く現物教育プロジェクト（3つのプロジェクト）に関わる調査研究のサポート全般実施（学生フィールドワーク、教員対応など）

「心に響く現物教育プロジェクト学生の成果報告会」

平成23年3月18日（金） Big・U研修室4 参加25名



成果報告会の風景（学生発表）



パネル展示

【2】地域研究・生涯学習部門

2-1 地域研究関係

- ①「地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業」での地域ニーズの把握（地域からの提案→学内コーディネート）
- ②地域貢献機能充実を図るためのプロジェクト事業「民産官学による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」への参画。
新宮市熊野川町、田辺市三川地区、白浜町全域の調査研究・実践を主担当



白浜町議員一職員一大学チームの合同勉強会



公民館での議論に参画（三川分館）

2-2 生涯学習関係／講座・セミナー

- ①なまけん会南紀熊野の定点・定時開催継続実施
住民、県教委、市教委、市役所、大学、NPO、公民館関係者平均10名参加。平成22年度は6回開催。
- ②平成22年度マナビスト支援セミナー企画ゼミ／生涯学習“繋”パーソネットわーく事業（県教委一地域連携・生涯学習センターの事業）への参画
- ③第9回地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー「新しい公共形成と生涯学習～地域を元気にする力～」(主催：地域連携・生涯学習センター)
日時：平成23年2月19日(土) 13:30～16:30 Big・U研修室1 参加者約50名
- ④第32回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会への参画
- ⑤田辺市生涯学習推進計画（田辺市・旧生涯学習教育研究センター）に基づく田辺市地域コーディネーター養成講座、生涯学習振興大会、社会教育委員会議等への参画



マナビストゼミ風景



なまけん会南紀熊野風景

2-3 学内事業との連携

- ①特別支援教育コーディネーターフォーラムの遠隔開催をサポート（和大本学→Big・U）今年度は5回開催
- ②第1回和歌山大学研究集会（平成22年8月4日）に出講。テーマ「新任教職員合同合宿研修報告 ALL 和歌山大学 ルーキーから見た！学生・教職員連携・協働の新しい可能性」
- ③教職員キャリアアップ研修（平成22年12月2日～3日）に出講。テーマ「地域連携から大学の魅力づくりに向けて」



和歌山大学研究集会での発表



本学教職員研修でサテライト視察

【3】 地域連携・産官学連携部門／地域からの相談

3-1 きのくに活性化センターとの連携

- ①きのくに活性化センター企画運営委員会への参画
- ②田辺市・中心市街地活性化事業（たなべえバル、マップ製作など）への参画
- ③地域イベントへの参画（U遊祭、秋津野ガルテンアートクラフト体験教室プロデュース）



甘☆夏map 2010（南紀みらい）



たなべえバル（飲み歩きイベント）当日

3-2 田辺市町村広域圏健康・観光産業クラスター推進協議会との連携

- ①田辺広域圏で実施のモニターツアー（林業体験など）の参画
- ②“熊野”癒し・怪し・蘇りの地活用事業（民話妖怪マップ・キャラクター事業）への参画
- ③日常の情報交換・プロジェクトでの協力・連携



妖怪キャラクター（超鳥人ガイナ&だるだる）



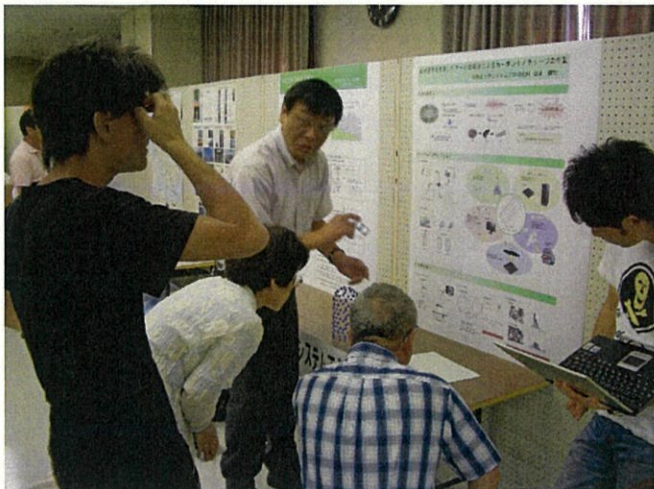
林業体験モニターツアー

3-3 大学と地域の連携・協働推進

- ①秋津野地域づくり学校（株式会社農業法人秋津野）への参画
- ②紀南経済研究会の研究事業の相談
- ③NPOのマネジメント相談・事業の相談対応、田辺市市民活動センター等運営への協力（広報、事業、企画面など）
- ④紀南木質資源カスケード利用研究会への参画
- ⑤たなべ梅サンド開発委員会へのサポート
- ⑥木守プロジェクト（仮称／エネルギー自給地域に向けた調査研究）への参画
- ⑦環境フォーラム in 紀南での発表や新宮市ごみ減量等推進委員会委員、和歌山市内での中心市街地調査、介護予防講演会、自主防災組織顧問などにおいて、教員をコーディネート

⑧わかやま産業交流サロン in 紀南への参加

⑨その他、地域（行政、各種団体、事業者等）からの相談対応、事業協力など



環境フォーラム in 紀南にて伊東先生の研究発表



秋津野地域づくり学校最終フォーラム

3-4 大学間連携

①「地域型大学サテライト拠点情報交換会2010 in 和歌山大学・南紀熊野 地域と共に発展する大学へ まなぶ・つながる・ささえあう・地域型サテライトの役割と戦略を考えよう！」（主催：和歌山大学地域創造支援機構）を実施。

日時：2010年12月22日（水）15：00～18：00 場所：紀伊田辺シティプラザホテル

内容：①基調提案「和歌山大学南紀熊野サテライトの取り組み」（山本健慈学長）

②事例報告・問題提起「地域連携活動における農村地域サテライトの取組成果と駐在員の意義

（神戸大学農学研究科地域連携センター：内平隆之地域連携研究員）

「能登里山マイスター養成プログラム～将来の農林水産業と地域を担う若手人材の養成～」

（金沢大学能登里山マイスター養成プログラム：伊藤浩二教務補佐員）

③全体討論・グループワーク→全体報告

i 基調提案／事例報告・問題提起から学んだこと

ii 地域型サテライトの到達点と問題点

iii 地域型サテライトが抱える課題で何をまず解決したいのか

参加：10大学／約40名参加（北海道大学、酪農学園大学、岩手県立大学、金沢大学、松本大学、岐阜県立情報科学芸術大学院大学、神戸大学、広島大学、愛媛大学、和歌山大学）



山本学長からの基調提案



熱心なグループワークの実施

【4】ガバナンス・運営／地域課題解決に向けて

【4】ガバナンス・運営／地域課題解決に向けて

4-1 南紀熊野サテライトの運営強化に向けて

- ①みらい戦略報告書・学内機構改革により名称が「南紀熊野サテライト」へ。所管も地域創造支援機構 地域連携・生涯学習センターに
- ②南紀熊野サテライト企画運営会議の設置、ならびに定例化
- ③事務補佐員から特任職員（地域連携コーディネータ）を配置し、人的基盤の強化を実施
- ④和歌山大学運営発展課題の研究調査としてサテライト機能を持つ大学の視察を実施（金沢大学、北海道大学&酪農学園大学）

4-2 南紀熊野サテライト視察の受け入れ

- ①本学教職員による南紀熊野サテライト視察（教職員キャリアアップ研修）
- ②神戸大学農学研究科地域連携センターの視察受け入れ

4-3 会議運営・他サテライトとの交流会

- ①オフィス会議、南紀熊野・岸和田サテライト交流会／連絡会議、企画運営委員会、サテライト長会議、南紀熊野サテライト連携協議会などの会議を実施・参画

4-4 和歌山大学の最前線拠点として

和歌山大学の最前線拠点・情報拠点として、大学案内・入試案内・各種情報提供を行うと共に、全学の紀南拠点として事業への参画・連携、情報発信を行っています。